

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	1992300028		
法人名	社会福祉法人寿真会		
事業所名	グループホームらくえん倶楽部		
所在地	中央市極楽寺 745 - 1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新 1 - 2 - 12		
訪問調査日	平成 23年 1月 27日 (木)		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

定員 7名の家族的な温かな環境の中、自分らしく生活が出来るよう自立支援に努めている。特別養護老人ホームとの併設により他職種が連携し、医務管理 栄養管理が充実されている。また、外部との交流が多くボランティアの方々によるレク活動も多くある。
--

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

利用者 7名のこじんまりとした事業所である。しかし、地域密着型特別養護老人ホームと併設され、隣の敷地には特別養護老人ホームがあり協力 連携体制が出来ている。設備面は申し分のないほど整っている。周囲は田園風景が広がり、利用者が季節の野菜を作ったり、田んぼのいなごをとって佃煮にするなどのんびりとした生活支援がなされている。また、言葉が出なかった利用者が、居間はカラオケを歌う様になったり、使わなかった右手が少し動かせる様になるなど、毎日の生活の中の支援が出来ているのはすばらしい。

サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印		項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の 2/ 3くらい				2. 家族の 2/ 3くらいと
			3. 利用者の 1/ 3くらい				3. 家族の 1/ 3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に 1回程度ある				2. 数日に 1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の 2/ 3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の 1/ 3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目 11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の 2/ 3くらいが				2. 職員の 2/ 3くらいが
			3. 利用者の 1/ 3くらいが				3. 職員の 1/ 3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の 2/ 3くらいが				2. 利用者の 2/ 3くらいが
			3. 利用者の 1/ 3くらいが				3. 利用者の 1/ 3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の 2/ 3くらいが				2. 家族等の 2/ 3くらいが
			3. 利用者の 1/ 3くらいが				3. 家族等の 1/ 3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目 28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の 2/ 3くらいが				
			3. 利用者の 1/ 3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームらくえん倶楽部** ④ル内の改行は、(Alt+)+ ④

自己	外部	項 目	自己評価 (実践状況)	外部評価		
			ユニット名 (花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や共同生活室の壁に掲げ、ユニットミーティングにおいては、声を出して復習して確認し理念の共有を図っている。	3つの理念を常に意識し日々のケアを提供している。7名の利用者の力を見極め、それを引き出す支援をし、地域に開かれた事業として「地域の高齢者福祉」に貢献出来る様努力している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の事業や地域の祭りなど行事をとoshite参加の機会を得ている。地域の方々に知ってもらって馴染みの関係の構築をしている。	河川清掃に参加している。与一翁祭り・れんげ祭り・稲穂祭りなど地域の祭りに行き、納涼会には参加してもらうなど交流を図っている。誕生日は紙芝居や人形劇のボランティアが来苑している。幼稚園児も年 3回訪問している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の啓蒙をする良い機会として、地域の祭りなどへ参加し、なるべく地域へ出向いている。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をとoshite年間の活動の取り組みや報告をしている。質疑の機会をとらえ入居者の参加出来る場作りの協力を得ている。	利用者の代表も1名参加している。報告以外にも行事や近くの名所などを紹介してもらっている。また苑内の様子を一緒に見学してもらっている。「夜勤者が1名ではどうなのか？」「避難訓練が大変か？」との質問ある。	質問や紹介以外に、今後はちょっとした事でも気軽に発言してもらい、サービスの向上につながる事が出来る様な会議の持ち方の工夫を期待したい。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ市の担当者や地域包括センター担当者等に参加を頂き、実践の取り組みの中から改善点や見直しなどアドバイスを頂いている。	介護支援専門員が要介護認定の更新時には窓口で現状を報告している。また、定員が7名なので増床についての相談をしたり、新しい利用者についての相談などを気軽にしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりがケアの理念に基づき、入居者の尊厳の保持に努めドアロック・言語ロックや身体拘束の排除をしている。	身体拘束はしない事を入居時に書類と共に説明している。帰宅願望のある時には、声かけやお茶を勧めたり、他の利用者に一緒に座ってもらうなどの対応を工夫している。常に穏やかに接する様に心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (実践状況)	外部評価	
			ユニット名 (花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修の中から高齢者虐待防止については自覚を促したり実践で活用している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所に成年後見制度を利用されている入居者がいる。後見人との連携のもと自立支援をおこなっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の契約に関して納得し理解されるまで説明を行い、記名捺印を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見交換の場として家族会や意見箱を活用して要望を寄せていただく機会をつくっている。ホームからの便りの他にも必要あれば来苑されたり、電話で連絡している。	家族会は年2回開催している。バスハイクの回数を増やして欲しい、週2回の個人レクの外出時にもっと買い物をしたいなどの意見が出た為、日々の食材は一部配達してもらい、ゆっくり買い物に時間が取れる様にした。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・職員全体集会・運営会議や年に一度の個人面談により、有意義な意見交換の場をつくり反映している。	「浴槽の中の椅子の購入」「カラオケの購入」などの希望が出ている。勤務については休みの希望を聞いてから勤務表を作成している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続者の表彰や定期昇給など、随時、職員との接点をつくり意欲を引きだしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資質の向上のために常に外へ視点を持ち、内外の研修に併せ中央への資格取得への機会を与えている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流の機会をつくり一緒にレクをしたり、時に講師に依頼されて派遣し、情報の共有をするなど資質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から現在困っている現状の問題点を傾聴して、安心して生活できる環境づくりを支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の方が共に安心した生活が送れるよう支援している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々のニーズの中から第一に必要な部分を見極め、安心出来る信頼関係を築いている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分らしさ」を発揮出来る環境づくりをして安心して生活出来るよう支援している。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性を維持出来るよう必要な報告をして、また、家族から必要とする支援と協力を願っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	地域の一員として自分らしく生きるための関係づくりに努め、祭りの参加やふる里巡りをして地域への愛着を深めている。	3つの町の代表的な祭りには参加している。習字を継続している利用者もいる。自分の店を心配して月2回様子を観に行く人もいる。野菜を作り、食材としている事をいきいきと話す利用者もいた。	

自己	外部	項 目	自己評価 (実践状況)	外部評価	
			ユニット名 (花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲立ちして、共通の話題を提案したり、ゲーム・レクリエーション・カラオケなど得意とする部分への意欲を引き出している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用 (契約) が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も今まで築いた関係づくりのフォローや必要とされる時の支援を行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からニーズを傾聴して「自分らしく」生活するには、どう支援していけば適切な生活が出来るか、アセスメントの検討をして本人らしく生活出来るよう支援している。	利用者に寄り添い思いをつかむ様にしている。3か月に一度は本人・家族から話を聞き、本人の言葉としてそのまま記録している。「何でも一人でいたい」という利用者は環境作りに配慮する様なプランで支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより、生活歴や社会歴を基本に本人家族から聴き取り、分析して適切な支援が出来るよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を大切に生活リズムを把握して、無理のない自分らしい生活が出来るよう支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く生活していくため解決すべき課題により担当者会議を行い、カンファレンス・モニタリング・プランの評価を行い、プラン作成をしている。	面接をもとに全員でカンファレンスし、再アセスメントから介護計画の原案を作成し、利用者・家族が参加する担当者会議にて決定する。家族の同意を得た計画について支援していく中で状態変化時には変更している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスを全員で行い次のプランに反映出来るよう、全員で個々のケースの見直しと内容を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (実践状況)	外部評価	
			ユニット名 (花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医務との連携により健康管理や主治医への報告している。管理栄養士による食事の実態調査や献立に関する協力や支援に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々・傾聴ボランティア・メイクボランティア・幼稚園児との来苑を頂き、元気をもらい気分転換をして楽しい一時を過ごす事が出来ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族と主治医との関係づくりにより、月2回の往診と必要時の往診を受け適切に支援を受けている。	家族や本人の希望でかかりつけ医を決めてもらっている。歯科・眼科・内科・皮膚科泌尿器科の往診がある。それ以外の受診の付き添いは原則としては家族だが、必要に応じて職員も付き添いをする。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が事業所に常駐化して健康管理と維持出来るよう支援を受け、緊急時の対応を適切に受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の適切な判断によりスムーズに入院や治療の受け入れも可能となり、入退居後もスムーズに継続出来ている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医務との連携により終末期のあり方については入居時、または終末期に於いて家族・本人の意向を大切に主治医・看護師・介護現場の職員がチームを組んでカンファレンスを行い、情報を共有し実施している。	今までに2名の利用者の看取りをした。入居時に看取りケアの説明をし同意を得ている。重度化し、ドクターが終末期と判断した時に再度家族に確認し同意を得て、看とりプランを作成し終末期ケアを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルに従い、個々のケースにより実施出来るよう研修を行い実践力をつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (実践状況)	外部評価	
			ユニット名 (花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害避難訓練を実施している。本年は特殊建物災害避難訓練を実施した。施設の職員の他、地域の消防団・消防署・住民を含め訓練を実施した。	併設の特別養護老人ホームと合同で年2回火災の避難訓練を行っている。床暖房・調理器はIH使用なので失火の心配はなく、建物の周囲も田園でもらい火の心配もない。	火災の避難訓練は実施しており、建物の構造面からも心配はないが、地震についてもいざと言う時に冷静に対応出来る様訓練の実施を期待したい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の「人間の尊厳」を事業所の基本理念に掲げ、入浴や排泄時その他プライバシーの保護に努めている。	不穏で興奮してる時は、好きなジュースやお茶の提供をしたり、帰宅願望の強い時は「車のエンジンが温まるまで待っていて下さいね」というような安心できる言葉かけをしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方や筆談にてコミュニケーションを取っている入居者の方等、個々にケースは違っても、ゆとりある環境をつくり温かい雰囲気の中で実践している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を大切に、その人らしさの日々が過ごせるよう支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部より散髪・メイクボランティア等来苑あり、美への関心を深めている。その他、昼と夜の衣服の着替えの介助をして女らしさ、自分らしさへの表出の援助をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分への参加をしている。(食器洗い・調理補助) 洗日は全員で出来る部分へ参加してほうとう作りをした。	食材は畑で採れた物(大根・さつまいも)などを使い食事時の話題としている。メニューは栄養士が立てているが希望を聞いてお寿司を月1回したり、ほうとうの回数を多くしている。経管栄養の利用者もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取には、特に配慮をして少ないときは好きなジュースなども補足する事もある。健康的に不足の時は医務へ報告している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (実践状況)	外部評価	
			ユニット名 (花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の自主性を尊重しながらも言葉かけをして口腔ケアを毎食後実践している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄リズムにより誘導したり 介助したり自立支援を促している。	7名の利用者のうち3名は自立・3名は定期誘導している。立ち上がるなどの仕草から尿意を読み取り声かけしている。1時間おきの時もある。やむを得ずおむつ使用の利用者は要介護度 5で重度の利用者である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のケースにより野菜を好まない男性がいたりするので繊維性の食品を取り入れたり、水分摂取の確認や運動への支援をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は楽しみの一つであるため、本人のニーズを大切に入浴時間が可能な限り支援をしている。	介助が必要な利用者の入浴日の午後は職員の出勤を多する勤務にしている。見守りで入浴可能な利用者はいつでも対応出来る様にしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり 安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が改善出来るよう 日々の活動をして夜間安眠出来るよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の管理は医務で行い、一日分ずつ現場で入居者に内服管理している。利用者の適応内容は現場職員一人ひとりが必要性和内容の確認はしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々に変化がもてるような戸外レクや外食等支援している。出来る方は他の利用者の車椅子を押して散歩したり、手をつないで外出したりして生活を楽しんでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価 (実践状況)	外部評価	
			ユニット名 (花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑の周囲の散歩は下肢力の維持の為にも行っている。月・木曜日は個別ケアで外出支援を実施している。レク活動でふるさと巡りや家族による我が家の味を忘れないように協力されている方もある。	併設の施設があるのでホームの敷地が広い。その周囲も田んぼや畑で車の通りも少なく自由に散歩が出来る環境である。併設施設のレク活動などに出かけていく様にして歩く機会を多くしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は買い物で買う楽しさを経験している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文章が書ける方、絵手紙で近況を知らせる方、関心のない方などある。電話の場合は代行をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激 (音、光、色、広さ、温度など) がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い部屋づくりに各部屋に「額」を取り入れ絵を楽しんでいる。自分達が描いた習字や絵、外出のとき摘んできた草花、作成した毎月のカレンダーなどを飾って季節感を演出したりして日々を楽しんでいる。	床暖房になっていて暖かい。キッチンもトイレも浴室も使いやすく清潔感がある。居間とキッチンが近いので皿洗いなどをしている利用者への目配りができ、こじんまりとした家庭的な暖かさがある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分らしく生きるゆとりの時間帯でもある。女性同士の「語」があったり一人でお茶を飲みたいなど個々のニーズに答えている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのタンス、茶飲み茶碗など馴染みの物を持ち込み、安心した生活が出来るよう支援をしている。	居室には洗面所があり、ベッドと引き出し戸棚が用意されている。危険物以外は持ち込み自由になっているので、それぞれの好みに応じた居室となっている。面会時の家族間の連絡ノートが置いてある部屋もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのニーズとケースにより機能の維持をはかり、出来る事への支援をして自分らしく自立した生活が出来る環境づくりをしている。		